

## 河川環境美化及び ゴミ対策について



古賀 種文

河川環境美化については強力に推進しているにもかかわらず、ゴミが一向に減少していない。有明海の環境保全のため、住民全員での取り組みが必要であると思うが、今後の取り組みについて伺う。

**答弁** 有明海の環境保全のためには、住民の協力が不可欠で住民一人一人が河川環境美化、河川愛護の意識をもつことが重要である

と考える。筑後川河川美化ノープイ運動についても、住民意識の高揚を図る観点からも今後とも国土交通省と一体となって推進し、取り組んでいきたい。筑後川流域のゴミ対策研究会があるが、この中でも沿線自治

体と協力をし河川環境美化愛護運動について住民への意識の啓発を兼ねた情報発信を行えるように取り組んでいきたい。

◆その他◆特定外来生物について／消防団の連絡体制について

## 12月15日(月)

## 学校教育の補助金 について



副島 義和

部活動で九州大会や全国大会に出場する際に、遠征費用を補助しているが、プラスチックを例にとると、保護者負担が一人当たり九万五千円となっており、負担が大きい。補助金額については、保護者やPTA連

合会等と協議しているのか。  
**答弁** PTA等とは今まで協議したことはないが、市民の関心がある問題だと認識しており、教育委員会

内部で議論をしている。しかし、補助金交付要綱のわずかな改正にとどまっております、内部の検討だけではどうにもならない状況になっている。予算の総額を引き上げることはできないが、教育委員会で補助金交付要

綱の素案を作成し、早急に補助の対象団体、あるいはPTAの代表者に説明を行い、意見を聞いた上で、さらに交付要綱を練り直したいと考えている。

◆その他◆環境問題／グラウンド整備について

# 特別委員会

## 人口問題 調査特別委員会

十一月十四日開催

### 各グループの委員の取り組みについて

〔説明〕委員が定住促進対策と限界集落対策と二グループに分かれて調査研究をし、相互に報告を行った。

### 定住促進対策グループ

〔報告〕定住促進に効果的と思われる二十事業を立案し、評価項目を設け数値化して優先度評価を行った。パンフレット作成、定住総合窓口の設置、納税封書の活用、定住情報のホームページの充実の情報発信四事業が上位を占めた。また乳幼児医療助成の就学前までの拡充、第三子以降保育料無料化はコスト面では低い

配点だが総合計では上位で、実施の有無が地域間格差につながる。新規就労の窓口設置は既存の事業や窓口をPRする等の対策が必要。若年層に対する入居支援の取り組みは評価が高い。百円宅地分譲、中山間地の空き家バンクは限界集落対策グループの調査研究を踏まえ、今後議論を深めていく。なお今回挙げた事業は優先度にとらわれることなく、努力と工夫でさらに効果を上げることが可能。

### 限界集落対策グループ

〔報告〕市内の中山間地域で座談会、農家民宿の経営者、実際地域外から移住された方、古湯熊の川温泉活性化委員会、JAさが富士町支部との意見交換等を行い、地域の活性化、定住への課題を整理。その中で人

口減少は見られるが、地理的には近隣都市まで車で二、三十分の距離等の現状を踏まえると、限界集落までに至った地域はないが、このまま放置すれば限界集落化。また水源涵養や環境保全から中山間地域特有の地理生活条件を背景とした地域活性化、人口増は不可欠で、地元住民自身の地域活性化への意欲が引き出せるよう、多方面からの対策が必要。地域の現状、定住促進、地域振興の三つのキーワードで、行政、地域の観点から課題を整理した。

### 執行部への中間報告

第二ステージのまとめとして執行部に伝えた。

〔執行部〕これらを参考にしながら事業検討を行い改めて議会へ提案したい。

## 中心市街地活性化 調査特別委員会

九月二十五日開催

### 徴古館周辺整備事業について

〔説明〕 整備方針について地権者の鍋島報効会と一定の合意がとれたため、鍋島報効会との間でまちづくりに関する基本協定を締結し事業を進めていきたい。

〔質問〕 市民の憩いの場的な公園整備を考えてい

るのか、それとも観光的な位置づけで計画をしているのか。



徴古館とその周辺（松原2丁目）

じさせる特色のあるエリア形成を考えており、例えば旅行者とタイアップして観光客を呼べるような公園整備をイメージしている。

十一月十四日開催

### 呉服町地区のまちづくりについて

〔説明〕 老朽化により落下物等が見受けられるアーケードについては、呉服町名店街協同組合の破産手続開始が決定し、解散状態にな

ったことから、最終的に道路管理者である市に管理責任が及ぶため早急に撤去し、路面整備をしたい。

〔質問〕 アーケード等の撤去費用はどのくらいを見込んでいるのか。

〔答弁〕 アーケード撤去及び道路整備等で約一億二千万円を見込んでいます。

### 白山地区のまちづくりについて

〔説明〕 ハローワーク移転

後の周辺駐車場整備について、購入を考えていた遊休地の協議が進展しないため、他の民間駐車場を含め、早急に確保する準備をしている。また周辺の一体的な活用として、白山名店街協同組合が競売により落札したビルを解体し、駐車場として利用する予定であるため、その整備費用を支援したい。

〔質問〕 ハローワークが移転することと白山名店街協同組合所有のビルを

解体し、駐車場とすることは別であり、積極的に支援する必然性が感じられない。どのように考えているのか。

〔答弁〕 白山地区はエスプラッツと玉屋を結ぶ中心核エリアで、まちづくりに重要な場所である。今後、中心核エリアとハローワーク誘致に伴う周辺の環境整備など全体計画を示し、本委員会の議論、承認に基づいた支援をしていきたい。

# 特別委員会

## 市立病院等 調査特別委員会

十一月十七日開催

### 公立病院等の今後のあり方を考える会など

〔質問〕 現在、医師確保に苦勞されているが、どういった問題を抱えているのか。

〔答弁〕 以前は、医師免許取得後、研修生の大半が大学の医局で研修していた。しかし、二〇〇四年から始

まった新医師臨床研修制度により、研修生が自由に研修先を選べるようになり、大学の医局よりも臨床研修

ができる都市部の大病院等

を選ぶ人が増えたと言われている。この結果、医師の派遣元である大学の医局から医師がいな

ってしまったので、手だての打ちようがない状況である。

〔質問〕 これまで佐賀大学を医師の派遣元としてきたが、近隣の他大学や

退職された医師などへの働きかけなどによる医師確保を模索していくべきでは。

〔答弁〕 これまで佐賀大学から医師の派遣を受けてこ

られたのは、佐賀大学との関係を最重要視してきたからだと考える。医師を確保

するために、あちこちに手を広げて失敗した事例も多く聞いている。医師確保に

ついては全国的に同様の事

情があるため、県の再編ネットワークの動き等も見ながら進めていきたい。

### 三瀬診療所の診療体制

〔説明〕 平成六年に当時の佐賀医大から三瀬診療所に赴任以来、十四年間、プライマリ・ケア、初期治療及び臨床倫理の重要性を訴え、山間地の地域医療に尽力されてきた白浜雅司先生が十月下旬に病のために帰らぬ人となられた。現在、三瀬

診療所では、佐賀大学医学部と富士大和温泉病院から代診の先生を迎え、週四回午前中のみ開院している。しかし、地域住民からは代診ではなく専任の診療医を早く探してほしいとの声が強まっている。

〔質問〕 以前と比較して、三瀬診療所の診療機能は、

〔答弁〕 以前よりも、診療時間が短くなり患者数がい

所を開院できるようにしていきたい。



三瀬診療所